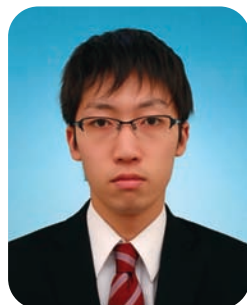


バリ島での国際会議に参加して

工学府電気電子工学専攻M2 瀬尾 高德



国際会議参加にあたって

2014年8月28日～8月30日にインドネシアのバリ島で開催された APWiMob2014 (IEEE Asia Pacific Conference on Wireless and Mobile)に参加し、口頭発表を行いました。会場であるバリ島のクタはインドネシアの中でも有数の観光地で、いろいろな国から来た観光客で賑わっていました。日本人の観光客も多く、街中のスーパーでは、日本製の製品も数多く売られていました。

発表を通じて

私の研究は、傾斜地における電波伝搬特性を解明することです。研究では、伝搬特性を推定するモデルを

提案し、実験でモデルの妥当性を検証しています。この研究は携帯電話のサービスエリア設計に役立てられます。今回の発表では "Path loss prediction model for sloped area in a microcell based on scale model and real environment measurement" という題目で発表を行いました。発表の準備をするにあたり、英語での発表スライド及び原稿作成に多くの時間を割きました。私の場合、ご指導いただいた先生、LL (Lounge)



発表の様子

guide Lounge) の先生方に何度も添削してもらいました。英文の添削以上にLLでネイティブの先生とマントゥマンで行った発表練習に多くの時間を費やしました。読むスピードや発音などを細かく注意され何度も練習しました。

発表は、とても緊張しましたが、練習の成果があつてミスなく発表を終えることができました。しかしながら、発表終了後の質疑応答では、質問者の英語が予想外に速く質問の意味を理解することができませんでした。そして、うまく回答がすることができませんでした。ここでとても悔しい思いをしたため、もっと英語を勉強しようと思いました。

発表終了後、バリ島の観光ツアーに参加しました。そこで観光地の一つであるウルワツ寺院を訪れ、ケチャックダンスを見学しました。そして、インドネシア郷土料理をいただき、異文化に触れることができました。

おわりに

今回の国際会議を通じて実感したことは、語学を習得することの重要性です。どんなに素晴らしい発表をしている人がいても、言葉を理解できなければ意味がありません。せつ

かく会議に参加しても意見交換を行うこともできません。いわば「為す術がない」といった状態です。今回の国際会議で語学をきちんと学習して習得することの重要性を実感することができました。

謝辞

今回の国際会議参加にあたり支援していただいた明専会に厚くお礼申し上げます。また、丁寧にご指導いただいた市坪信一准教授、LLの雨森未来先生、Dennis Woolbright先生に心から感謝いたします。ありがとうございました。

(平成26年11月記)



ケチャックダンス発表の様子